

— 県内景気は拡大している —

海邦総研県内景気動向調査(2017年10-12月実績、2018年1-3月見通し)

海外、県外からの観光客需要の活発さを背景に、今期(2017年10-12月)の県内企業の景況判断BSIは12.0と「上昇」超となっていることなどから、「県内景気は拡大している」。

来期(2018年1-3月)の見通しとしては、県内、県外、海外需要も引き続き持続するとみられ、景気は引き続き拡大が続くと見込まれる。ただ、人手不足が各企業において深刻な課題となっていることから今後の行方を注視する必要がある。

～業種別概要～

観光関連

観光客数は増加し、多くの業種で好調

観光関連は、繁忙期からの反動はあるが、入域観光客数は着実に増加しており好調は持続している。各企業は増大するニーズに対応すべく、人材確保、サービスの効率化などを通じた生産性向上や設備投資など前向きな取り組みが多くみられている。

建設・不動産関連

民間は好調が持続。公共は若干縮小

民需では、マンションや戸建て建設だけでなく、アパート建設需要が高い状況が依然続いている。不動産関係は、沖縄の観光関連産業が好調なことから新たな投資先として注目されているとの見方もあり、好調な状態が予想より長く続く可能性もある。

食品・消費・サービス関連

個人消費は堅調 だが、二極化が進む可能性も

全体的には個人消費は底堅く推移。県内の食品製造、消費やサービス関連は秋口も引き続き観光客需要による需要の押し上げがあった。生産性向上に向けた業務の効率化、設備投資を実施する企業もでてきている。人手不足は大きな課題。

～資本金別・地域別概要～

資本金別・現状判断と見通し

今期の景況判断BSIは、すべてのカテゴリーにおいて「上昇」超となっている。特に5000万円以上1億円未満のBSIは34.8と最も高くなっている。来期(1-3月期)は、すべてのカテゴリーで「上昇」が「下降」を上回っている。

地域別・現状判断と見通し

今期の景況判断BSIは、離島を除く地域で「上昇」超となっている。最もBSIが高い地域は本島北部地区で24.1となっている。来期(1-3月期)の見通しとしては、すべての地域で「上昇」超となっている。

県内企業の景況判断 BSI

■現状と見通し

【実績(2017年10-12月期)】

●全業種の景況判断BSI(実績)は、12.0と「上昇」超【見通し(2018年1-3月期)】

●全業種の景況判断BSI(見通し)は、14.6と「上昇」超【業種別結果】

【実績(2017年10-12月期)】

●旅行・宿泊業(-36.0)、飲食サービス業(-21.1)を除いて、それ以外の業種で「上昇」超となっている

【見通し(2018年1-3月期)】

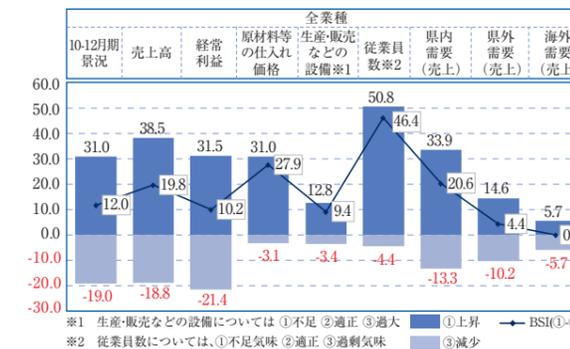
●旅行・宿泊業(-16.0)、製造業(-10.9)を除いて、それ以外の業種で「上昇」超の見通しとなっている

企業の景況判断BSI(前期比「上昇」「下降」社数構成比)

	2017年				2018年
	1-3月期 調査実績	4-6月期 調査実績	7-9月期 調査実績	10-12月期 見通し	1-3月期 見通し
全体BSI	8.6	11.3	24.3	21.9	12.0
建設業	42.9	0.0	9.4	32.8	19.1
製造業	-24.2	16.7	14.6	36.6	10.9
情報通信業	0.0	-17.4	-5.6	16.7	22.2
卸売・小売業	10.8	20.0	40.0	29.3	13.9
不動産業等	15.0	30.2	6.5	21.7	15.4
旅行・宿泊業	-26.1	0.0	57.1	-11.4	-36.0
飲食サービス業	18.8	12.5	70.6	-11.8	-21.1
医療・福祉	-25.0	0.0	-17.6	0.0	17.6
その他のサービス業	19.4	14.8	28.6	20.8	21.6
資本金別					
1000万円未満	1.8	19.0	34.1	18.7	14.1
1000万円以上5000万円未満	8.6	9.8	20.6	27.5	11.7
5000万円以上1億円未満	25.8	7.3	24.4	29.3	34.8
1億円以上	0.0	11.9	16.7	14.3	6.7
従業員数別					
10人未満	18.6	15.4	19.5	27.3	11.4
10人以上20人未満	0.0	7.1	36.3	25.0	14.1
20人以上50人未満	0.0	9.9	23.1	17.6	9.1
50人以上100人未満	22.5	15.3	21.6	33.3	24.1
100人以上	0.0	5.3	27.3	21.8	5.2
地域別					
本島北部地区	0.0	0.0	38.2	17.6	24.1
本島中部地区	14.4	10.8	18.3	24.8	8.2
本島南部地区	-5.6	16.7	21.7	38.3	18.5
那覇地区	6.5	5.9	26.3	21.2	20.8
離島地区	18.2	36.8	35.9	-2.6	-16.2

全業種の結果

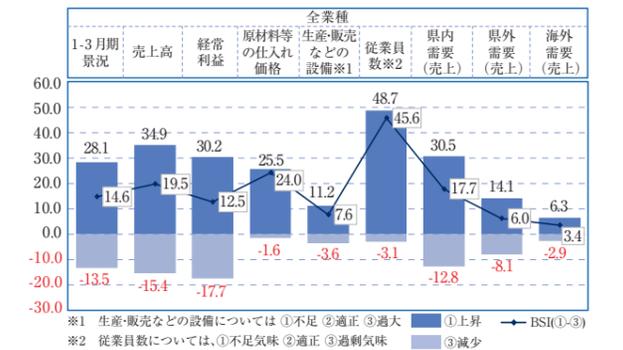
■10-12月期の現状(7-9月比較)BSI 全業種



10-12月期景況BSIは12.0で、「上昇」超となっている。従業員数(46.4)は大幅に「不足気味」超となっている。県内需要(20.6)、県外需要(4.4)ともに「上昇」超となっている。

■1-3月期の見通し(10-12月比較)BSI 全業種

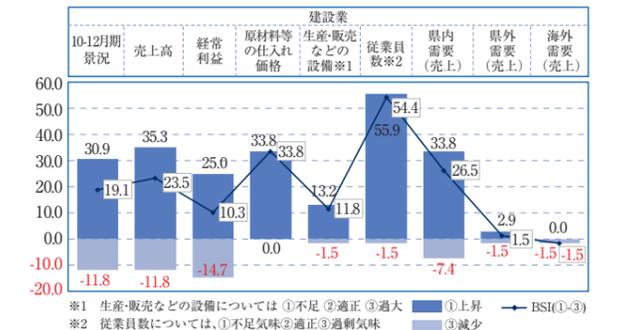
1-3月期景況見通しは14.6で、「上昇」超となっている。すべての項目において、「上昇」超となっている。従業員数(45.6)は「不足気味」超が見通しとなっている。原材料等の仕入れ価格(24.0)も「上昇」超の見通しとなっている。県内需要(17.7)、県外需要(6.0)、海外需要(3.4)ともに「上昇」超の見通しとなっている。



■業種別10-12月期の現状と1-3月期見通し

【建設業】

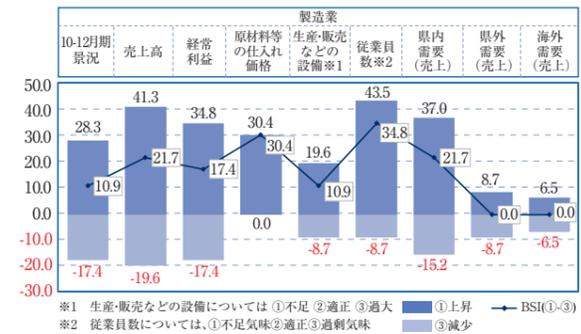
10-12月期の景況は19.1となっている。海外需要(-1.5)以外の項目において「上昇」超となっている。従業員数(54.4)は「不足気味」が大きく上回っている。1-3月期の景況見通しは27.9で「上昇」超となっている。ほとんどの項目が「上昇」超となる見通しである。従業員数(51.5)は「不足気味」が続くと見通しとなっている。原材料等の仕入れ価格(30.9)も「上昇」超の見通しとなっている。



【製造業】

10-12月期の景況は10.9で「上昇」超となっている。ほとんどの項目において「上昇」超となっている。従業員数(34.8)は「不足気味」となっている。

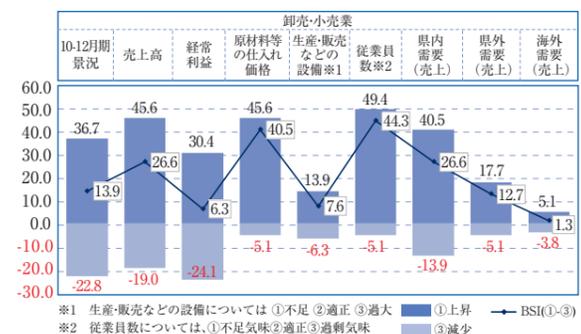
1-3月期の景況見通しは-10.9で「下降」超の見通しとなっている。経常利益(-13.0)、県外需要(-10.9)、県内需要(-8.7)が「下降」超となる見通しである。従業員数(37.0)は「不足気味」が続くとの見通しとなっている。原材料等の仕入れ価格(17.4)も「上昇」超の見通しとなっている。



【卸売・小売業】

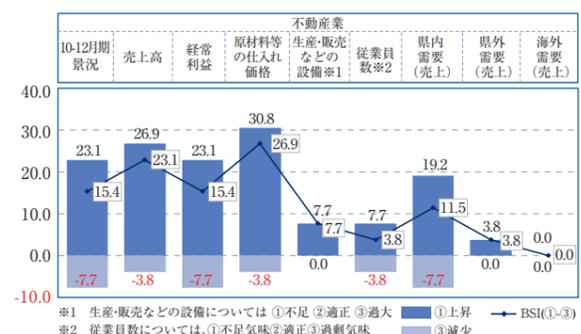
10-12月期の景況は13.9で「上昇」超となっている。ほとんどの項目において「上昇」超となっている。従業員数(44.3)は「不足気味」が大きく上回っている。

1-3月期の景況見通しは17.7で「上昇」超となっている。ほとんどの項目において、「上昇」超となる見通しである。従業員数(43.0)は「不足気味」が続くとの見通しとなっている。原材料等の仕入れ価格(29.1)も「上昇」超の見通しとなっている。



【不動産業等】

10-12月期の景況は15.4で「上昇」超となっている。ほとんどの項目において「上昇」超となっている。従業員



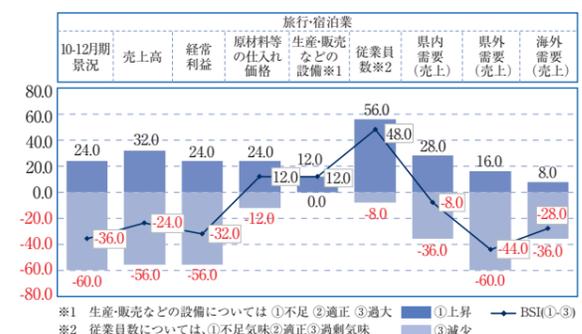
数(3.8)は「不足気味」超となっている。

1-3月期の景況見通しは19.2で、「上昇」超となっている。ほとんどの項目において、「上昇」超となる見通しである。従業員数(11.5)は「不足気味」が続くとの見通しとなっている。

【旅行・宿泊業】

10-12月期の景況は-36.0で「下降」超となっている。ほとんどの項目において「下降」超となっている。従業員数(48.0)は「不足気味」が大きく上回っている。

1-3月期の景況見通しは-16.0で「下降」超となる見通しとなっている。経常利益(-20.0)、売上高(-16.0)、県内需要(-12.0)が「下降」超となる見通しである。従業員数(36.0)は「不足気味」が続くとの見通しとなっている。



観光関連概況

観光関連は、夏場の繁忙期から秋冬の閑散期に入った反動もあり、景況判断BSIが-36.0と低迷したが、入域観光客数は着実に増加しており好調は持続している。実際、各企業においては増大するニーズに対応するべく、人材の確保や人材教育、各種サービスの効率化などを通じた生産性向上、設備投資によるキャパシティの増加など、前向きな取り組みが多くみられている。

旅行会社では、国内客、外国客ともWEBを通じた個人旅行商品を中心に集客が伸びている様子だ。多様化する個人客のニーズに対応するため、「コト」に注目した商品開発が進められている。国内団体旅行は、募集型商品に対するニーズが減退しているものの、企業や地域団体等の団体旅行は増加しているようだ。このほか、減少が続いていた海外からの募集型団体旅行も回復基調にあるが、内容が簡素化しており単価も安く、利益率が課題となっている。

宿泊施設は観光客増加の恩恵を受け全体的に好調。フルサービスホテルから宿泊特化型ホテル、ドミトリーなどの簡易宿泊施設など、さまざまなタイプの宿泊施設で活況となっている。このようななか、設備投資を検討するホテルも

多くみられ、今後も供給客室数が増えていくとみられる。なお、旅行会社からは、ホテルが確保しやすくなっているという声が聞かれており、集客チャネルの棲み分けが進んでいることも考えられる。

交通関連では、増加する外国人個人旅行層をターゲットに催行される周遊バスツアーは、依然として多くのコースが提供されており、競争は厳しさを増している。

観光関連の今後の見通しについて、来期(1-3月期)の景況判断BSIは-16.0となっているが、クルーズ船寄港予定数も多いことなどから入域観光客数の増加が見込まれており、好調に推移すると考えられる。

建設・不動産関連概況

建設関連は官需、民需ともに好調さを維持している。建設業の10-12月期の企業の景況判断BSIは19.1で前期に続きプラスで、次の1-3月期の見通しもプラスとなっている。ヒアリングにおいても新たな工事受注が困難になるほど現場が忙しく、当面このような状態が続くとの意見が多くあった。

民需では、マンションや戸建て建設だけでなく、アパート建設需要が高い状況が依然続いている。マンション建設では、これまで施工業者だった事業者が自社ブランドでマンションを建設・販売するケースも増えてきた。それとは逆に、従来自社ブランドを建設してきた事業者が、他の受注案件で人材不足になり、他社に建設を依頼するという事例もある。

供給地域が名護市などの北部地域にも広がりつつある。まだ戸建志向が強い地域であるが、今現在で数棟のマンションが分譲販売され、建設予定もある。

不動産関連事業者の今期の景況判断BSIは15.4のプラスで、次の1-3月期の見通しは今期よりも高い水準になると予想されている。中古の戸建て・マンションが販売当時より高値で売買される状況が続いている。

公共では、10-11月期の公共工事請負額は、去年同期比ではマイナス15.7%であったが、引き続き米軍基地や那覇空港関連の大型工事に加え、学校や団地などの耐震工

事および建替え工事などが安定して発注されているため、請負額の大幅な落ち込みはないとみられる。

食品・消費・サービス関連概況

卸売・小売業、その他のサービス業、情報通信、医療・福祉において10-12月期の景況判断BSIはプラスとなっている。特に回答事業者数の多い卸売・小売業やその他のサービス業に関しては、県内、県外、海外需要ともにプラスとなっている。秋口も引き続き観光客需要による需要の押し上げがあった。

一方、県内の飲食サービス業に関しては県外需要、県内需要の減退もあり売上高、経常利益ともにBSIはマイナスとなっている。ただ、事業規模の比較的大きい店舗においては観光客需要を確実に取り込み、また新規顧客の獲得に向けた新たな業態への進出などの動きも見られる。今後も県外大手チェーンとの競争は続くことから、各事業所とも、いかに集客し、売上を伸ばしていくかは大きな課題である。

そのほかの業種も含め、サービス業全般で人手不足は一層深刻化している。人材流出を防ぐ取り組みが多くの事業所で行われているほか、人材確保に関しては、外国人技能実習生を受け入れる事業所も徐々に増えつつある。そのほか、小売業の現場においては留学ビザで入国している留学生への期待もさらに大きくなっている。

今後は、人材の獲得だけでなく、現在の従業員を辞めさせないようにするための取り組みも具体的に行わなければ、人手不足への対応が難しくなり、事業所の収益に影響を与えるであろう。

来期(1-3月期)の見通しとしては、多くの業種で県内、県外、海外からの需要が増加するとみており、景況判断BSIはプラスとなっている。県内における消費は観光客需要も含め堅調に推移するとみられる。

※同調査結果については、海邦総研HPで公開しております。
ご興味のある方は、ご覧ください。(http://www.kaiho-ri.jp/)

※調査概要は以下のとおりである。
●調査目的:沖縄県内企業の経営の実態と見通しを把握し、今後の各企業の経営の参考情報として提供することを目的として実施した。本調査は、各種経済関連指標だけでなく、県内各事業所へのアンケートおよびヒアリング等を実施し、県内景況の現状と見通しについて整理を行った。
●調査対象:原則、県内に本社所在地がある事業所が対象。
●回答状況:384事業所
なお、本調査は、以下2点の特徴がある。
・調査対象は、比較的小規模な事業者における景況も反映されたものとなっている。
・本調査においては、県内企業の各種BSI(Business Survey Index)を算出した。算出方法は、以下の通り。
BSI=(「上昇」と回答した企業構成比)-(「下降」と回答した企業構成比)
※BSIは景況の現状や先行きを「上昇」「下降」といった前期と変化した方向で判断する指標である。BSIがプラスであれば、企業の景況や各種項目が前期と比較して好調であるということであり、BSIがマイナスであれば、景況や各種項目が前期と比較して不調と考えられる。